

教 科	科 目 名	単 位 数	学 年	学科またはコース	履 修
理科	生物基礎	2	3	全学科	選択

科目のねらい	生物や生命現象の持つ多様性を踏まえつつ、それらに共通する生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 遺伝子・健康・環境など日常生活や社会に関わるテーマを通して、生物や生命現象に対する興味・関心を高める。
使用教材など	教科書：改訂 新編生物基礎（東京書籍） 副教材：ニューサポート 改訂新編生物基礎（東京書籍）

期	月	時数	学 習 内 容	学習のポイント
一学期	4月	L:24	①授業ガイダンス	①:授業の受け方や試験、成績の付け方について理解する。
	5月	G:25	①生物の多様性共通性	①～③:生物と遺伝子について観察・実験などを通して探究し、細胞のはたらきやDNAのおおまかな機能・構造を理解し、生物に対して共通性と多様性から見る視点を身に付ける。
	6月	E:24	②生命活動とエネルギー	④・⑤:遺伝情報を担う物質としてのDNAのはたらきと性質、DNA情報に基づくタンパク質の合成のしくみを理解する。
	7月	期テ1	③生物と遺伝子 ④遺伝情報の分配 ⑤遺伝情報とタンパク質の合成	
二学期	8月	L:29	⑥体内環境の維持	⑥～⑧:生物の体内環境の維持について観察などを通して探究し、生物には体内環境維持のためのしくみがあることを学習し、体内環境の維持と健康とのかかわりについて理解する。
	9月	G:26	⑦体内環境を保つしくみ	⑨・⑩:身近な自然環境に興味を持ち、その特性を理解する。陸上では多様な植生が移り変わることで、気候を反映して様々なバイオームが成立することを理解する。
	10月	E:29	⑧体内環境を守るしくみ	
	11月	中テ1	⑨植生の多様性と遷移	
	12月	期テ1	⑩バイオームとその分布	
三学期	1月 2月 3月	L～E:4 期テ1	⑪生態系とその保全	⑪:生態系の成り立ちを学習し、その多様性を理解するとともに、その保全の重要性について認識する。
時数合計		L:61 G:59 E:61		

観点	a 関心・意欲態度	b 思考・判断・表現	c 技能	d 知識・理解
観点の趣旨	生物に関する日常生活の事物・現象に関心や疑問をもち、関心や疑問を自ら見出すことができる。	積極的に生物や授業内容に対する疑問を常に持ち、自ら解決しようとする姿勢が見られる。	観察・実験の技能を習得し、手順に従って観察・実験を進めることができる。	生物に関する知識を身に付け、生物の基本的な概念や原理・法則を理解することができる。
評価方法 主たる	授業態度 ノート（記述点検）	行動の観察	ワークシート 実験・考察レポート	定期試験 小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。				

評価項目・学習にあたって・評価点		
①定期テスト	1年に5回実施。普段の授業や課題に集中して取り組むことが大切です。	70 点
②ノート・プリント・課題の提出、観察・実験	定期テストごとにノート・実験プリントなどを点検する予定なので、真剣に取り組む、期日まで確実に提出しましょう。 また、観察や実験には準備や後片付けも含めて積極的に参加・活動し、実験プリントは十分に記入して提出するようにしましょう。	30 点